

# 間伐材の利用による地産地消エネルギーの導入



メンバー： 小林英生（5期）  
加藤秀美（5期）  
稲垣寛子（11期）  
加藤弘一（3期）

## テーマ選定の背景

- ・2020年2月27日岡崎市は**ゼロカーボンシティ**を表明
- ・国の「**エネルギー基本計画**」の有識者会議において、2030年度の再生可能エネルギーの割合を「36%～38%」とし、2019年度の18.1%から大幅に引き上げる素案が示された。
- ・岡崎市は額田地区において、**杉・檜の人工林の放置・荒廃**が問題となっている。



間伐材による再生可能エネルギーの導入検討を開始

## 活動の内容（令和3年度）

- 【1】アウトレットモールにおける間伐材を利用した発電用ボイラーの設置に向け、**燃料の条件**である間伐材の水分率（丸太状態で50%未満）を満たすための**管理方法**と、丸太から**チップの作成条件**を検証

コンクリート上での自然乾燥  
6ヶ月程度で、水分率50%  
確保が可能なが確認できた



<間伐材チップの作成>

- 【2】岡崎市へのカーボンニュートラルモデル提言に向けて、**一般市民を巻き込んだ草の根運動**となるように講演会・ワークショップ・啓発イベント等を開催

- 1) 手作り自然エネルギー製作**体験学習**（5/16）
- 2) ALL自然エネルギー**アウトドア体験**（6/20）
- 3) 岡崎のカーボンニュートラルを考える**講演会**  
・講演会+パネルディスカッション（11/28）
- 4) 市民会議**ワークショップ**（2022/1/9）  
・岡崎市への提言の具体的内容を検討  
⇒今後更に検討を重ねる予定



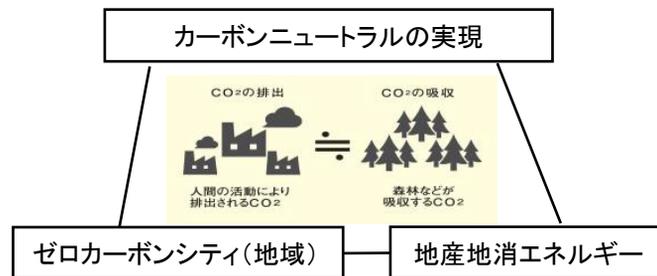
体験学習



ワークショップ

## 目指すべき姿

岡崎市で計画中のアウトレットモールを核とした再開発計画「**東部広域観光交流地域**」一帯で、**間伐材を活用したカーボンニュートラルモデル**を創設



## 活動の成果

<成果>

1. 間伐材はコンクリート上で6ヶ月自然乾燥すると**ボイラー用燃料として使用可能なが実証**できた。
2. **市民啓発活動**を実施することで、市民の参画意識の醸成を図ることができた。
3. 東部広域観光交流拠点計画が岡崎市都市計画マスタープランに掲載され(2021/4)、具体的な計画策定が開始。それに合わせて、**市の環境部に説明・提言**することができた(2021/8)。

## 今後の展開

地産地消エネルギーの導入の基本となる**ガス化発電熱電供給設備(CHP)**の導入条件の検討

<検討事項>

- ①東部広域観光交流拠点事業者とのエネルギー供給に関する検討
- ②CHP設備(発電用ボイラーと関連機器)の仕様検討
- ③アウトレットモールで利用するエネルギーの20%をまかなう間伐材の安定供給